

横浜会場

12時30分開場



timetable

| | | | |
|---------|---------------------|---------|---------------------|
| 1/30(土) | 13:00 『タクシー野郎 昇天御免』 | 1/31(日) | 13:00 『魔法』 |
| | 14:20 『ブendesリーガ』 | | 15:20 『湖底の蛇』 |
| | 15:40 『湖底の蛇』 | | 16:40 『ブendesリーガ』 |
| | 17:00 『魔法』 | | 18:00 『タクシー野郎 昇天御免』 |

会期：2016年1月30日(土)、1月31日(日)

会場：東京藝術大学横浜校地 馬車道校舎 3階大視聴覚室 (103席)

アクセス：横浜市中区本町4-44 (みなとみらい線「馬車道」駅5、7 出口すぐ)

料金：入場無料・予約不要

主催：東京藝術大学大学院映像研究科 横浜市文化観光局

連携：フォト・ヨコハマ2016

HP：<http://geidai-film.jp/>

上映その他のお問い合わせは：geidaiilm2016@gmail.comまで。



GEIDAI FILM



渋谷会場



timetable

| | | | |
|---------|-------------------------------|---------|------------------------------------|
| 2/20(土) | 21:00 『ブendesリーガ』 『湖底の蛇』 | 2/24(水) | 21:00 『魔法』 |
| 2/21(日) | 21:00 『魔法』 | 2/25(木) | 21:00 『ブendesリーガ』 『タクシー野郎 昇天御免』 |
| 2/22(月) | 21:00 『タクシー野郎 昇天御免』 | 2/26(金) | 21:00 『湖底の蛇』 『ブendesリーガ』 |
| 2/23(火) | 21:00 『湖底の蛇』 『タクシー野郎 昇天御免』 | | |

※作品の間に休憩はありません。
※イベント内容によってHP等で告知致します。

会期：2016年2月20日(土)～2月26日(金)

会場：渋谷 ユーロスペース

アクセス：渋谷区円山町 1-5 KINOHAUS 3F (渋谷・文化村前交差点左折)

会場ウェブサイト：<http://www.eurospace.co.jp/>

お問い合わせ：03-3461-0211

料金：前売券 1日券 ¥700 (税込)

当日券 1日券 ¥900 (税込)

フリーパス券 ¥1,500 (税込) ※会期中何度でも入場可能

主催：東京藝術大学大学院映像研究科

Facebook：www.facebook.com/TUA.graduationfilm2016

twitter：@OPentheater2014



東京藝術大学大学院映像研究科
映画専攻第十期生修了制作展

1月30日・1月31日

東京藝術大学馬車道校舎



2月20日-26日

渋谷ユーロスペース

CLASS OF 2016



2016年/120分/アメリカンビスタ/LCR/カラー/DCP

監督:児玉龍太郎/構成:児玉龍太郎 岡田和音 上田望園/
プロデューサー:竹中佐織/撮影:井前隆一朗/照明:堅木直之/
美術:美崎玲奈 菊地綾子/サウンドデザイン:坂元就/
編集:馬雅欣/助監督:上田望園/衣裳:美崎玲奈

出演:児玉龍太郎 服部由 坂元就 児玉章代 伏見隼

あらすじ

芸術大学の大学院に通っていた主人公Aは、在学中に体調を崩し、修了制作を撮るはずだった映画が未完成に終わり、大学院を中退。
5年後の2020年、結婚して妻と娘と3人で藤沢の団地に暮らしているAだが、今も過去を内心引きずっている。
仕事はなかなか続かない。夫として父として前向きに生活する一方、かつてやっていたバンド活動を再開してみたりするのだが……。

監督コメント

2015年、様々な「未来」を想像した。その想像する未来は「映画が撮れた未来」「映画が撮れなかった未来」と、目の前の「映画」が基準になり大別されていることに気づいた。
そして、同時に自分だけでなく出演者・スタッフ、皆にも想像する未来があることも気づいた。ひとつの映画を皆の想像する未来で形作ることを目標にした。

監督プロフィール

1988年生まれ、東京都出身。青山学院大学社会学部卒業。同校在学中、音楽に没頭し卒業論文が何も書けないことに気づき、ビデオカメラを回し始める。それがきっかけで映画制作を開始。他の作品に中国の南京藝術学院の協力を持って撮った「凹」(くぼみ)や、MONSTER Exhibition 2014(東京・ニューヨーク)で展示された「小僧結」などがある。



2016年/60分/シネマスコープ/5.1ch/カラー/DCP

監督:川田真理/脚本:野頭雄一郎 加藤良夫/
プロデューサー:木戸大地/撮影:照明・視覚効果:森田亮/
美術:柴田正太郎/サウンドデザイン:伊東俊平/編集:小林望/
助監督:野頭雄一郎/衣裳:山下幸一郎/ヘアメイク:堀川貴世/
擬斗:遊木康剛/音楽:今村左閑

出演:折笠慎也 範田紗夕 新井秀幸 富田佳典 藤田尚弘

あらすじ

エリート警察官・種野は、歪んだ正義感が高く、自慰行為をしていた妻・満子をゴヤで斬りつけてしまう。刑を終えた種野が乗ったタクシーは、後部座席で性サービスを行う違法風俗タクシーだった。車中にはなんと満子とそっくりの女性・おみつが。彼女は種野の乗車を機に姿を消す。責任を取られる形で、種野はタクシーで男娼をする羽目になる。一方警察では、ポンコツ警官・尾成と新エース・浅館による捜査が動き始めるのだった……。

監督コメント

「重厚な人間ドラマが織り成す感動巨編」
これは本作のイメージともっともかけ離れたフレーズのひとつです。「じゃあコメディ?」と聞かれると、そうとも答えないに逸品です。
担当教員の「盛大の恥にならない」という金言に触発されて企画された本作。果たして積極的な「恥」となったのか現時点ではわかりません。監督として、会場の雰囲気やシリアスになればなるほど首が締まるような気持ちになってしまう水物です。お客さんそれぞれの反応(「!」なり「?」なり「!?」)で映画を完たしてもらいまして初めて完成する作品ですので、どうぞ気楽にお楽しみください。

監督プロフィール

1991年生まれ、東京都出身。成城大学文芸学部芸術学科に入学し、映画に興味を持ち始める。3年時に映画熱が高じて映画研究部に入部し、映画制作を始める。そこで得た自信を浮遊力に映画美術学校フィクションコースに入校するも見事に挫折。若干の沈黙期間を経て、短編「カッパルブレイク」「閉結」直希ゼミ」を携え本校に入学。



2016年/65分/アメリカンビスタ/5.1ch/カラー/16mm撮影/DCP

監督:太田達成/脚本:木村孔太郎 太田達成/
プロデューサー:勝山侃洋/撮影:深谷祐次/照明:井前隆一朗/
美術:岡田明彩子/サウンドデザイン:新井希望/編集:坂本悠花里/
助監督:竹林宏之

出演:金子祐史 青坂匡 岡健太 亀井史興 安楽涼 麻野貴士

あらすじ

東京から地元に戻り、廃校になった母校でひとり暮らしカネゴン(28歳)。卓球の本場であるドイツのブンデスリーガで活躍することを目指し、日々練習している。そこに中学校の同級生たちが訪れるようになり、旧友と遊んでいく中でカネゴンの「今」が浮き上がっていく。

監督コメント

この映画を作るにあたって一番重視したことは、まず豊かな撮影現場を作ることでした。
僕の求めていた「豊かさ」は、現場で試行錯誤する時間が取れる現場のことです。それを実現するために、撮影場所を熱海の廃校にしぼり、また信頼できるなじみのある役者さんに出てもらうことで、みんなで考えながら1カットずつ丁寧に撮影することができました。その1カット1カットが積み重なってこの映画はできたと思います。
2006年に廃校になってしまった網代中学校、そして役者さんたちが魅力的にみえたら嬉しいです。

監督プロフィール

1989年生まれ、福島県出身。ENBUゼミナールにて映画を学び、初監督作品「海外志向」が京都国際学生映画祭2012にてグランプリを受賞。その後、ラッパーGOMESSを追ったドキュメンタリー映画「遊びのあと」がMOOSICLAB2014にて上映される。



2016年/60分/アメリカンビスタ/5.1ch/カラー/DCP

監督:脚本:中田里奈/プロデューサー:原田賢/撮影:John Eunhee/
照明:森田亮/美術:玉林亜理/サウンドデザイン:小針沙紀子/
編集:李媿倫/助監督:清原惟 廣田耕平 浅野良輔/衣裳:山下幸一郎/
ヘアメイク:中麻衣子/音楽:佐立努

出演:巖谷三佳 木村翠 篠田光里 西本竜樹 岡部成司 田村耕作
みやべほの 矢島康美

あらすじ

湖のほとり、静かな山間の町。そこにはもうすぐ大きな橋が架かるとうしている一。娘が結婚し家を出て行き、仕事に忙しい夫との淡々とした生活に息苦しさを感じている。そこに中学校の同級生を借り、身辺整理に日々を費やしている和子。仕事は段々と減っていく中、理想と現実の差にもどかしさを感じている洋。3人は互いへの隠し事を胸に秘め、一家揃って渡り初めの先頭に立っている。

監督コメント

鯛も鮮も食うた者が知ると言いますが、
去年の冬に実家に帰省した際、母親の同級生の女性たちの集まりに予期せず加わるようになりました。そこで一番新鮮だったのは、母親という、まるで縁ぎ接ぎだらけの重くてかさばる下着を脱ぎ去って来たかのような方々……!(という表現は大変イマイチですが)様々な経験を重ね、生きてきた背景に大きな違いを出しながらも、学生のように会話を交わす方々、そして自分の母親が、とても印象的でした。わたしは障りに際し、卒業制作の主人公は五十代の女性にしようと思ったのでありました。ところが決意慮く、その後は自分より歳や経験の多い女性を描くのに大変苦労した日々でした。
鯛も鮮も食うたことのないわたしが、その味を知ろうと思うのはまだまだ早すぎたと痛感しております……。

監督プロフィール

1991年生まれ、熊本県出身。武蔵野美術大学映像学科に進学し、美術と映像全般の制作を学ぶ。在学中に「素数の影の落ちる位置」(13)などを監督。他に自主制作映画「ソフレ」(15)など。